



報道関係機関各位

	発信年月日 令和 担当部課名		知7年5月13日	送付枚数(本紙含む))	4枚	
			部課長名	担当者職氏名		連絡先電話番号		
	総務企画部 地方創生推進室		地方創生監 佃 侑祐	宮崎	公嗣	08	37–52–5226	

件名	令和7年度 みね・みらい大会議の開催				
開催日時	令和7年5月24日(土) 10:00~12:00				
開催場所	美祢市民会館大会議室				
出席者	地方創生推進室、地域振興課 ほか				
概要	美祢市では、近年、急激に人口減少や少子高齢化が進んでおり担い手不足をはじめ様々な問題が生じています。そこで人口減少を客観的なデータに基づき分析し、その問題に正面から向き合い、全世代の市民で取り組むことで、未来のにぎわいを創造していくため、美祢市では「みらい・そうぞう・まちづくりプロジェクト」を立ち上げました。そのキックオフとして、全地区で人口動態の分析結果を共有し、これからを考えていく場として「みね・みらい大会議」を開催します。・講師:・一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所				
城 安	・講師・一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 ・一般社団法人 ドリームレッド ・内容:美祢市の地区別の人口推計からみる将来の状況 人口流出の抑制や出生数の増加の将来人口への影響 美祢市赤郷地区における地域コミュニティの取組 ※本取組について(資料別添資料参照)				

がきょしどう がきょしだい 特別天然記念物 秋 芳 洞 国定公園 秋 吉 台

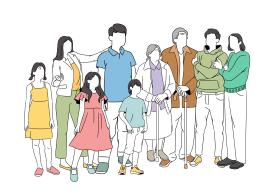
山口県美祢市

〒759-2292 山口県美祢市 大嶺町東分326-1

みね・みらい大会議

5.24_(±) 10:00-12:00

美祢市民会館大会議室



人口分析から 美祢市の未来を探る

あなたは、自分の住んでいる地域の人口が、10年後何人に なるか知っていますか?

中山間地域政策や地域分析の専門家が美祢市の地区ごとの 人口を分析。

地域の現在と未来を、誰もが身近に感じることができるセ ミナーです。



お申込み方法



右下の連絡先に、氏名、住所等をご連絡いただくか、下記QRコードから申込みください。



当日参加も可能です



講師 藤山 浩

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長

1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(マネジメント)。島根県中山間地域研究センター等を経て2017年より現職。2023年度より上越市創造行政研究所・所長も兼務、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析(人口・経済)、地域づくり支援。著書に「田園回帰1%戦略」、「循環型経済をつくる」、「小さな拠点をつくる」、「日本はどこで間違えたのか」など。

美祢市人口減少対策プロジェクトチーム



chihousousei@city.mine.lg.jp



0837-52-5226

みらい・そうぞう・まちづくり プロジェクト

現状

対 策

の方向

性

○美祢市は、人口<u>2.1万人</u>(R7.4時点)で、三方を海に囲まれた山口県にあって 唯一海に面しておらず、また日本最大級のカルスト台地「秋吉台」といった 地質資源をはじめ自然豊かな内陸の地域特性を有しています。

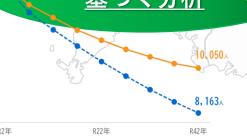
- ○本市は、その地域特性を活かした農業や鉱産業等で栄えてきましたが、 近年、人口減少や少子高齢化が急激に進み様々な問題が生じています。
- ○そのため、<u>未来へ持続可能な地域の活力確保</u>が重要な課題となっており、 教育や移住定住の促進、農業振興に企業誘致など様々な対策に力を 入れてきましたが、**人口減少のスピードは高まるばかり**です。



「にぎわい」確保に向けた これまでとは異なる対策が必要

247. <u>客観的なデータに</u> <u>基づく分析</u>

<u>人口減少に正面から</u> 向き合う <u>全世代の市民が</u> 参加



地域内循環等の創出



人口安定化に向けた「まちづくり」



未来のにぎわいを創造



未来へ続く「にざわい」創造のなかれ



未来へ続く にぎわい *創造*

人口減少対策プロジェクトチームによる 〇施策の企画・立案 〇既存施策の見直し

みね・みらい 大会議

- 〇地域ごとの人口動態と分析 結果を全地区で集まり確認
- ○<u>有識者</u>による解説
- ○その結果と取組を **みんなで共有**



みらい・そうぞう ワークショップ

- 〇市民中心にコミュニティ 関係図を作成・整理
- 〇地域の未来を想像し今ある 魅力や必要なものを確認
- 〇やりたいこと・できることを発案・準備・実行

起業、PR、 空き家活用・・・